
近くて遠くて近い君（改訂版）

蒼月時雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

近くて遠くて近い君（改訂版）

【Nコード】

N7780H

【作者名】

蒼月時雨

【あらすじ】

剣道部に所属する高校二年生、伊藤龍佑はある日突然、尊敬する部の先輩、工藤雫に告白される。時間を貰い、真剣に返事を考える龍佑だったが、帰宅すると今度は母から父の親友の娘を預かることになったと告げられる。悩みが一気に二つもできた龍佑が、同居人を迎えに行くとそこにいたのは大荷物を抱えた雫で……

【序幕：君から俺へ・大好きという言葉】

「あなたのことが大好きです。私と付き合ってください」

一陣の激しい風が屋上に吹き抜ける。まるで、今までそこに存在していたものを全て吹き飛ばすように。

桜も散り、夏の訪れが目前に迫ったその日。俺は初めて見る先輩の表情に動揺を抑えきれなかった。

いつもは自信と誇りに光る宝石のような瞳に浮かぶ、不安そうな、ふとした拍子に砕け散ってしまいそうな感情。こんな、ガラス細工のように綺麗で、でも頼りない彼女の姿は初めてだった。

「え、あ……じよ、冗談でしょう？」

ほんの少し前まで想像もなかったこの状況に、俺は狼狽えながら、ようやくそれだけの台詞を絞り出す。そんな俺に、先輩は一瞬前の表情とはまったく逆の、鋼を思わせる強い意志を孕んだ瞳で言った。

「私は冗談でこんなことを言わない。今、龍佑に言った大好きは私の本当の……一番大切な気持ち」

真っ直ぐ、真っ直ぐ、ただ真っ直ぐ。それは俺の知る先輩の姿であると同時に、俺の知らなかった先輩の気持ちだった。

何故、とか、どうして、とかそんな疑問文だけが俺の頭の中でグルグルと渦巻く。ややあって、工藤先輩がフツと柔らかな微笑みを浮かべる。

「答えは……急がない。いきなりだったし、考える時間もあげないのは卑怯だもんね」

でも——と、再度真剣な表情で先輩は続く言葉をその桜色の可憐な唇で紡ぐ。

「真剣に考えて。私は……本気であなただが好きだから」

どこまでも真剣で真摯な声色。その迫力に声が出せず、俺はただ間拔けに頷いた。

しばしの、どこか鋭い沈黙。

やがて、先輩はその空気を払拭するような、明るい声で、

「さ、そろそろ部活行かなきゃね。遅れたりしたらカナが怖いわよ？」

俺に負担をかけないよう、おどけたように呼びかけてくれる。

「そ、そうですね」

俺も顔に無理やり笑顔を貼り付けて、努めて明るく答えた。

そうして、俺達は屋上を後にする。表面上はいつもと同じ、仲のよい先輩後輩、でもその下にもっと別の何かを抱えて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7780h/>

近くて遠くて近い君（改訂版）

2010年10月20日19時42分発行